

河川基金助成事業

「未来を創ろう 木津川と共に」 報告書

助成番号：2024 - 7213 - 007

京都府木津川市立木津小学校

校長 遠藤 順子

2024 年度

助成番号	助成事業名		学校名			
2024-7213-007	未来を創ろう 木津川と共に		京都府木津川市立木津小学校			
所在地	京都府木津川市木津町内垣外 95 番地	対象河川名	淀川水系木津川と支流			
対象学年	4 学年(66 人)、5 学年 (62 人) 6 学年(79 人)	主たる教科	総合的な学習の時間			
河川教育の目標	木津川を取り巻く環境に関する調査活動や木津川がもたらす恵み、防災等に関する探究的な学習を通して、自然環境と人々との関わりについて理解するとともに、地域に住む人々の思いに気づき、これからの町づくりに主体的に参画しようとする態度と実践力を育成する。					
育成したい資質・能力	①課題を設定し、解決に必要な情報を収集し、協働的に解決しようとする力を育成する。 ②河川と地域とのつながりや生物多様性、水質調査等を通して社会的なものの見方・考え方や理科的なものの見方・考え方を養う。 ③課題解決型学習を展開し、論理的思考力、コミュニケーション能力、主体的に社会に参画する力を養う。					
学習活動の内容と成果						
○申請時は複数学年（4・6年）での実践計画であったが、6年の内容が盛り沢山であることから、一部5年生の学習に移行し、他教科との関連性や系統性を持たせながら計画・実施した。 1 木津川や支流での調査活動（川ごみ調査、プラスチックごみ調査、揚水機場見学、水質調査） ・4年は、木津川本流での川ごみ調査を、5年は木津川から広大な田に水を送る仕組みと水質調査を、6年は洪水時の浸水調査等を実施した。木津川での活動は、それぞれのテーマについての理解を深めるのみならず、 <u>自然の美しさや雄大さを五感で感じる貴重な体験</u> となった。 2 関係機関や地域住民による出前授業の実施 ・府広域振興局、市環境課、農政課、こどもエコクラブ、河川レンジャー、木津川を美しくする会等の関係機関や学校運営協議会を軸とした地域住民との連携の下学習を進めたことは、 <u>児童の体験活動の充実と地域との連携体制の強化</u> につながった。また、今年度は木津高等学校との交流が実現した。 3 課題解決型学習の展開 ・ <u>河川を題材とし、地域にある現代的課題を取り扱うことで課題を自分事として捉えることができた。情報を整理分析し改善策について協働的に思考することで、主体的に行動しようとする児童の姿</u> が見られた。						
学びの創意工夫点	・地域や関係機関とのつながりを重視した体験活動を意図的、計画的に取り入れたことで、実際に見聞して理解したことや感じたことを根拠に思考を深めることができた。 ・各学年の系統性を重視し河川での活動を組み込んだ結果、前学年までの河川・水の学びがベースとなり学習を積み上げることができた。 ・教科横断的なつながりを指導者が意識して単元計画を作成したことで、各教科における見方・考え方を深めることができた。					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	・木津川の風景や生物、自然環境を守る活動をしている人々の思いに触れ、 <u>自然環境を守ることの大切を実感</u> している。 ・木津川の恵みを享受しながら生活していることを理解し、 <u>自然と共存しながら生きることの大切さ</u> について気づく児童の姿が見られた。					
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関	博物館	資料館等	関係団体（漁協、農協）等	企業	その他
支援の概要	○府広域振興局・市土地改良区・農政課…出前授業・フィールドワーク ○市環境課・こどもエコクラブ・木津川を美しくする会・地域長…出前授業・川ごみ調査・水質調査 ○J A・株式会社明治・木津高校…出前授業 ○市危機管理課…出前授業・避難所体験					
成果発表	成果作品		発表方法			
	学習内容をまとめた壁新聞・プレゼンシート 啓発用ポスター等		・保護者、他学年や高校生に向けての成果発表 ・学校HPでの紹介 ・市内小中学校への授業公開			
今後の課題・展開						
○河川に関わる地域の出来事を自分事として捉え、社会の一員としての行動を促す学習についての研究 ○系統性をもたせた年間指導計画の作成（河川・水をテーマとして整理し、系統性や付けたい力を明らかにする。） ○児童が主体的に考え意欲的に活動するための課題設定の在り方や解決に至るまでの見通しの持たせ方の研究 ○関係機関との連携強化と体験学習の充実						

・キーワードとなる言葉にアンダーラインを引いて下さい。

河川教育計画書【複数学年4年生】

1.助成事業名	未来を創ろう 木津川と共に	学校名	京都府木津川市立木津小学校	助成番号	2024-7213-007																																																																																															
2.河川教育の目標	木津川を取り巻く環境に関わる調査活動や木津川を守るために取り組んでいる人々に関わる探究的な学習をとおして、自然環境と人々との関わりについて理解するとともに、自然環境を守るために自分たちができることについて考え主体的に実践しようとする態度を育成する。																																																																																																			
3.育成したい資質・能力	①課題を設定し、解決に必要な情報を収集し、協働的に解決しようとする力を育成する。 ②河川と地域・人々とのつながりから社会的なものの見方・考え方を養う。 ③単元全体をとおして、論理的思考力、コミュニケーション能力、主体的に社会に参画する力を育成する。																																																																																																			
4.学年／人数	第4学年 / 66名																																																																																																			
5.単元構想	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">単元目標</td> <td colspan="3">単元名「進め！木津川調査隊」</td> <td colspan="3">単元名「マイクロプラスチックとわたしたちの暮らし」</td> <td colspan="6">単元名「わたしたちにできること」</td> </tr> <tr> <td colspan="3">木津川での調査活動や木津川を守る活動をしている地域の方々からの話をとおして、豊かな自然に気づき自然環境を守ることに興味、関心をもつ。</td> <td colspan="3">プラスチックごみが環境に及ぼす影響と現状について理解し、豊かな木津川を守るために自分たちにできることについて考える。</td> <td colspan="6">木津川の豊かな自然を守るために自分たちにできることについて話し合い、実践する。</td> </tr> <tr> <td colspan="3">主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:社会・国語、道徳</td> <td colspan="3">主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:社会、国語、道徳</td> <td colspan="6">主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:社会、国語、道徳</td> </tr> <tr> <td colspan="3">20時間</td> <td colspan="3">20時間</td> <td colspan="6">20時間</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主な学習活動</td> <td colspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> ○SDGsの環境に関する項目について興味・関心をもち世界でどのような環境問題があるのか整理する。 ○環境問題と人々の暮らしは大きくかわりがあることを理解する。 </td> <td colspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> ○気象変動、豪雨水害等の問題から、課題設定する。 ○地域を流れる木津川について調査する。 ・水中生物、野鳥、植物、石の様子、ごみ等 (市まち美化推進課・木津川を美しくする会・河川レンジャーの) </td> <td colspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> ○木津川の環境について調査したことをまとめる。 ○6年生に調査結果を報告するため、計画・準備を行う。 ○6年生に向け調査結果を発表し、木津川の環境について話し合う。(「木津川サミット」) </td> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ○木津川調査で放置されていたプラスチックごみに着目し、課題を設定する。 ○プラスチックごみについて本やインターネット、講師の話などから情報を収集する。 ○マイクロプラスチック問題について自分なりの考えをもつ。 </td> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ○木津川のごみ調査を実施する。(市まち美化推進課・木津川を美しくする会の出前授業) ○プラスチックごみについての実態を把握し、感じたことについてまとめ交流する。 </td> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ○プラスチックを利便性(プラス面)と環境に与える影響(マイナス面)の両面から捉える。(ペットボトル飲料会社の出前授業) ○海に流れ着くプラスチックごみを減らすための生活について考え交流する。 </td> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を振り返り、木津川の環境を守るために自分たちにできることについて考えを深める。 ○保護者や地域住民に知ってもらい協力を呼び掛ける方法を考え計画をたてる。 </td> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> ○計画に沿って啓発のための準備をする。 ○単元をまとめ、表現する。 </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">評価の観点</td> <td colspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> ・興味関心をもとに課題を設定している。(主体的に学習に取り組む態度) ・必要な情報を正しく得ることができる。(知識・技能) ・木津川での体験活動から木津川の環境について自分なりに考えを深めている。(思考・判断・表現) ・学習したことについて根拠を明らかにしながら伝えている。(思考・判断・表現) </td> <td colspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> ・興味関心をもとに課題を設定している。(主体的に学習に取り組む態度) ・必要な情報を正しく得ることができる。(知識・技能) ・海に流れ着いたマイクロプラスチックが与える影響と木津川のゴミ調査の現状から、自分の生活と関連付けて考えを深めている。(思考・判断・表現) </td> <td colspan="6"> <ul style="list-style-type: none"> ・木津川の豊かな自然を守るために自分たちにできることについて話し合い、考えを深めている。(思考・判断・表現) ・1年間の学習内容をまとめ、自分ができることについて考え実践しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度) </td> </tr> </tbody> </table>					月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	単元目標	単元名「進め！木津川調査隊」			単元名「マイクロプラスチックとわたしたちの暮らし」			単元名「わたしたちにできること」						木津川での調査活動や木津川を守る活動をしている地域の方々からの話をとおして、豊かな自然に気づき自然環境を守ることに興味、関心をもつ。			プラスチックごみが環境に及ぼす影響と現状について理解し、豊かな木津川を守るために自分たちにできることについて考える。			木津川の豊かな自然を守るために自分たちにできることについて話し合い、実践する。						主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:社会・国語、道徳			主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:社会、国語、道徳			主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:社会、国語、道徳						20時間			20時間			20時間						主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○SDGsの環境に関する項目について興味・関心をもち世界でどのような環境問題があるのか整理する。 ○環境問題と人々の暮らしは大きくかわりがあることを理解する。 			<ul style="list-style-type: none"> ○気象変動、豪雨水害等の問題から、課題設定する。 ○地域を流れる木津川について調査する。 ・水中生物、野鳥、植物、石の様子、ごみ等 (市まち美化推進課・木津川を美しくする会・河川レンジャーの) 			<ul style="list-style-type: none"> ○木津川の環境について調査したことをまとめる。 ○6年生に調査結果を報告するため、計画・準備を行う。 ○6年生に向け調査結果を発表し、木津川の環境について話し合う。(「木津川サミット」) 			<ul style="list-style-type: none"> ○木津川調査で放置されていたプラスチックごみに着目し、課題を設定する。 ○プラスチックごみについて本やインターネット、講師の話などから情報を収集する。 ○マイクロプラスチック問題について自分なりの考えをもつ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○木津川のごみ調査を実施する。(市まち美化推進課・木津川を美しくする会の出前授業) ○プラスチックごみについての実態を把握し、感じたことについてまとめ交流する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○プラスチックを利便性(プラス面)と環境に与える影響(マイナス面)の両面から捉える。(ペットボトル飲料会社の出前授業) ○海に流れ着くプラスチックごみを減らすための生活について考え交流する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を振り返り、木津川の環境を守るために自分たちにできることについて考えを深める。 ○保護者や地域住民に知ってもらい協力を呼び掛ける方法を考え計画をたてる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○計画に沿って啓発のための準備をする。 ○単元をまとめ、表現する。 		評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心をもとに課題を設定している。(主体的に学習に取り組む態度) ・必要な情報を正しく得ることができる。(知識・技能) ・木津川での体験活動から木津川の環境について自分なりに考えを深めている。(思考・判断・表現) ・学習したことについて根拠を明らかにしながら伝えている。(思考・判断・表現) 			<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心をもとに課題を設定している。(主体的に学習に取り組む態度) ・必要な情報を正しく得ることができる。(知識・技能) ・海に流れ着いたマイクロプラスチックが与える影響と木津川のゴミ調査の現状から、自分の生活と関連付けて考えを深めている。(思考・判断・表現) 			<ul style="list-style-type: none"> ・木津川の豊かな自然を守るために自分たちにできることについて話し合い、考えを深めている。(思考・判断・表現) ・1年間の学習内容をまとめ、自分ができることについて考え実践しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度) 					
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																																																								
単元目標	単元名「進め！木津川調査隊」			単元名「マイクロプラスチックとわたしたちの暮らし」			単元名「わたしたちにできること」																																																																																													
	木津川での調査活動や木津川を守る活動をしている地域の方々からの話をとおして、豊かな自然に気づき自然環境を守ることに興味、関心をもつ。			プラスチックごみが環境に及ぼす影響と現状について理解し、豊かな木津川を守るために自分たちにできることについて考える。			木津川の豊かな自然を守るために自分たちにできることについて話し合い、実践する。																																																																																													
	主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:社会・国語、道徳			主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:社会、国語、道徳			主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:社会、国語、道徳																																																																																													
	20時間			20時間			20時間																																																																																													
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○SDGsの環境に関する項目について興味・関心をもち世界でどのような環境問題があるのか整理する。 ○環境問題と人々の暮らしは大きくかわりがあることを理解する。 			<ul style="list-style-type: none"> ○気象変動、豪雨水害等の問題から、課題設定する。 ○地域を流れる木津川について調査する。 ・水中生物、野鳥、植物、石の様子、ごみ等 (市まち美化推進課・木津川を美しくする会・河川レンジャーの) 			<ul style="list-style-type: none"> ○木津川の環境について調査したことをまとめる。 ○6年生に調査結果を報告するため、計画・準備を行う。 ○6年生に向け調査結果を発表し、木津川の環境について話し合う。(「木津川サミット」) 			<ul style="list-style-type: none"> ○木津川調査で放置されていたプラスチックごみに着目し、課題を設定する。 ○プラスチックごみについて本やインターネット、講師の話などから情報を収集する。 ○マイクロプラスチック問題について自分なりの考えをもつ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○木津川のごみ調査を実施する。(市まち美化推進課・木津川を美しくする会の出前授業) ○プラスチックごみについての実態を把握し、感じたことについてまとめ交流する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○プラスチックを利便性(プラス面)と環境に与える影響(マイナス面)の両面から捉える。(ペットボトル飲料会社の出前授業) ○海に流れ着くプラスチックごみを減らすための生活について考え交流する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を振り返り、木津川の環境を守るために自分たちにできることについて考えを深める。 ○保護者や地域住民に知ってもらい協力を呼び掛ける方法を考え計画をたてる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○計画に沿って啓発のための準備をする。 ○単元をまとめ、表現する。 																																																																																		
	評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心をもとに課題を設定している。(主体的に学習に取り組む態度) ・必要な情報を正しく得ることができる。(知識・技能) ・木津川での体験活動から木津川の環境について自分なりに考えを深めている。(思考・判断・表現) ・学習したことについて根拠を明らかにしながら伝えている。(思考・判断・表現) 			<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心をもとに課題を設定している。(主体的に学習に取り組む態度) ・必要な情報を正しく得ることができる。(知識・技能) ・海に流れ着いたマイクロプラスチックが与える影響と木津川のゴミ調査の現状から、自分の生活と関連付けて考えを深めている。(思考・判断・表現) 			<ul style="list-style-type: none"> ・木津川の豊かな自然を守るために自分たちにできることについて話し合い、考えを深めている。(思考・判断・表現) ・1年間の学習内容をまとめ、自分ができることについて考え実践しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度) 																																																																																												

河川教育計画書【複数学年6年生】

1.助成事業名	未来を創ろう 木津川と共に	学校名	京都府木津川市立木津小学校	助成番号	2024-7213-007							
2.河川教育の目標	木津川の地理や歴史、環境や防災について調べる活動をとおして木津川市に住む人々の思いに気づき、木津川とのつながりを意識しながら自分にできることについて考え、これからの町づくりに主体的に参画しようとする態度と実践力を育成する。											
3.育成したい資質・能力	①課題を設定し、解決に必要な情報を収集し、協働的に解決しようとする力を育成する。 ②河川と地域とのつながりから社会的なものの見方・考え方を、また生物多様性、水質調査等をとおして理科学的なものの見方・考え方を養う。 ③単元全体をとおして、論理的思考力、コミュニケーション能力、主体的に社会に参画する力を育成する。											
4.学年／人数	第6学年 / 79名											
5.単元構想												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元目標	単元名 「木津川と人々の暮らし」			単元名 「恵みをもたらす木津川環境」				単元名 「木津川と共に生きるためにできること」				
	地域を流れる木津川の地理的条件や歴史的事象について調べ、木津川のある暮らしについて自分なりの考えをもつ。			わたしたちの暮らしを支える木津川環境や生物多様性について調べ、木津川がもたらす恵みを受け継ぐために自分たちにできることについて考えを深める。				木津川の恩恵を受けながら、ともに生きるために、災害から身を守る暮らしについて考え実践しようとする態度を養う。				
	主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:社会・理科・道徳 20時間			主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:社会・理科・道徳・国語・体育 24時間				主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:社会・理科 23時間				
主な学習活動	○木津川について知っていることをウェビングマップを活用して広げ、課題を設定する。 ○木津川流域とその周辺の土地の様子について調べる。(インターネット、インタビュー、河川見学、資料など) ○木津川支流について知る。	○南山城水害28災を中心に、水害の歴史について調べる。 ○災害の状況とこれまでの治水対策について知る。(災害供養碑・樋門見学、市文化財保護課による出前授業)	○木津川と人々の暮らしを「暮らしを支える」「暮らしを脅かす」の両面から整理する。 ○木津川のある暮らしについて、気づいたことをまとめ交流する。	○木津川がもたらす恵みについて関心をもち、課題を設定する。 ○木津川から地域にある広大な田畑に水を引くしくみについて学ぶ。(広域振興局・農政課・建設課・土地改良区による出前授業及び揚水機場見学)	○木津川に生息する生き物や草花等、環境について調べる。(河川レンジャー出前授業・3、4年生からの調査報告) ○木津川支流の水質調査を行う。国土交通省や市まち美化推進課の調査データを分析する。	○さまざまな生き物が生きる豊かな環境を守っていくことの大切さについてまとめる。 ○木津川の恵みを受け継いでいくために、自分たちにできることを考える。	○すべての生き物が安心安全に木津川とともに生きていくために必要なことを考え課題を設定する。 ○災害から身を守るための暮らしについて考える。	○洪水時の消防団の活躍について調べる。(消防団・市危機管理課の出前授業、木津合同樋門・市排水ポンプ施設見学) ○調べた情報をもとに、防災について整理する。	○豪雨や台風時の避難の仕方について理解し、自分たちにできる防災について考える。 ○単元をまとめ、表現する。			
評価の観点	・興味関心をもとに課題を設定している。(主体的に学習に取り組む態度) ・必要な情報を正しく得ることができる。(知識・技能) ・木津川のある暮らしについて多面的に捉えている。(思考・判断・表現) ・論理的に考え根拠をもって意見をまとめ発表している。(思考・判断・表現)			・興味関心をもとに課題を設定している。(主体的に学習に取り組む態度) ・必要な情報を正しく得ることができる。(知識・技能) ・情報を整理分析し、木津川がもたらす恵みについて多面的に捉えている。(思考・判断・表現) ・木津川の恵みを受け継いでいくために自分たちにできることについて考え発表している。(思考・判断・表現)				・すべての生き物が安心安全に生きていくために必要なことを考え、課題を設定している。(主体的に学習に取り組む態度) ・治水対策や水害に備える地域の人々についての活動について情報を得ることができる。(知識・理解) ・情報を整理分析し、自分たちにできる防災について考え発表している。(思考・判断・表現) ・社会の一員としてできることを実践しようとする意欲をもっている。(主体的に学習に取り組む態度)				

河川教育 学習活動報告書【複数学年4年生】

1. 助成事業名	未来を創ろう 木津川と共に	学校名	京都府木津川市立木津小学校	助成番号	2024-7213-007
----------	---------------	-----	---------------	------	---------------

2. 実際に行った単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学習活動の結果	<p>単元名 「ごみ問題とわたしたちの暮らし」</p> <p>ごみ、特にプラスチックごみが環境に及ぼす影響と現状について理解し、豊かな木津川の環境を守ることに興味・関心をもつ。</p> <p>関連教科:総合的な学習の時間20時間、社会科6時間</p> <p>○日本のごみ問題から、世界の環境問題に目を向ける。 ・日本のごみ処理について知り、問題点を考える。 ・木津環境の森センター(ごみ処理場)見学</p>  <p>○身近な場所のごみ調査を行う。 ・ごみ処理の方法から、ごみの種類と分別の必要性について理解する。 ○プラスチックが生態系に及ぼす影響について知る。 ・市環境課出前授業 ・マイクロプラスチック問題とわたしたちの暮らしについて自分なりの考えをまとめる。</p> 				<p>単元名 「進め!木津川調査隊」</p> <p>木津川での調査活動や木津川の環境を守る活動をしている地域の方々からの話を通して、自然環境を守る大切さに気づき、自分たちの生活とのつながりについて理解を深める。</p> <p>関連教科:総合的な学習の時間25時間、社会科6時間</p> <p>○木津川本流の環境調査を行う。 ・河川敷の植物、生き物、水中生物、石の様子について観察する。 ・ごみ拾いを行い、分別する。特にペットボトル等プラスチックごみに着目し、感じたことをまとめる。</p>  <p>○「木津川を美しくする会」の方々の話から、一人一人の行動が木津川の環境を守ることに繋がっていることに気づく。 ・感想を交流する。 ・自分たちにできることについて考える。</p> 				<p>単元名 「つながる未来」</p> <p>木津川の豊かな環境を守るために自分たちにできることについて話し合い、実践する。</p> <p>関連教科:総合的な学習の時間20時間</p> <p>○自分たちにできることについて話し合う。 ・川ごみ調査、ごみ減量チャレンジ、雑紙回収、公園ごみ調査等の活動やこれまでの学びを振り返る。 ・環境保全について一人一人の意識を高めるために自分たちができることについて話し合う。 ・多くの人に現状と改善策を知ってもらうために発信する方法を考える。 ・実行計画を立て、準備を進める。 ・地域長さんや市環境課、管理課、校長、保護者(授業参観時)に実現可能か相談し、計画の修正を加える。</p> 			
	<p>○OSDGsの環境に関する項目について調べ、環境問題は私たちの暮らしと大きく関わっていることを理解する。 ・気象変動、豪雨水害の問題から、河川・水について興味・関心をもつ。 ○暮らしを支える水はどのように私たちのもとにやってくるのか、水の循環の仕組みについて理解する。 ・木津浄水場、木津川上流浄化センター見学</p>  <p>○地域を流れる木津川の環境について調査する計画を立てる。 ・水中生物、野鳥、植物等についてインターネットや本を使って調べる。 ・琵琶湖博物館見学</p> 				<p>「夏休みごみ減量チャレンジ」に取り組む</p>				<p>○木津川の環境をよくするために自分たちができることについて考える。 ・①ごみの分別を確実にすること②ごみを出さないこと③リサイクルできるものはごみとして出すのではなくリサイクルすることが大切であることから、「ごみ分別作戦」を立て実行する。 ・市環境課、子どもエコクラブの出前授業から、雑紙について知り、雑紙回収を行う。</p>  <p>○木津川支流と身近な公園のごみ調査を行う。 ・井関川や普段自分たちが遊んでいる瓦谷公園にもごみがたくさんあることを知り、これらが木津川本流や海にたどり着くと、環境や生態系に影響を与えることを理解し、危機感をもつ。</p>  <p>○地域長さんの話を聞き、環境への思いを知る。 ・地域の公園や川辺のごみ拾いを地域の方々がボランティアで行っていることを知る。 ・「みんなが安全に気持ちよく過ごせる場所に。」という地域の方々の思いを理解する。</p> 			
	<p>○計画に沿って発信する。 ・低学年に紙芝居 ・ポスターで啓発(校内・公園・木津川支流沿い) ・ごみ分別イベント ・校内放送で呼びかけ ・公園に花を植える</p>  <p>○1年間の学習を振り返り、まとめる。 ・木津川の美しい自然を守ることに、自分自身の考え方の変容やこれからの決意、継続して取り組んでいくこと等についてまとめ、発表する。</p> 											

3. 得られた成果

- 探究のプロセス(共通体験→課題設定→情報収集→整理分析→表現→課題設定)を踏まえた単元構成や協働的・対話的な学びにより論理的思考力や表現力の育成を図ることができた。
- 共通体験したことが効果的に働き、主体的な活動につながった。体験活動とその後の学習とのつながりや各々の場面で期待する子どもの姿を明らかにした単元計画を立て、指導者が見通しをもって取り組んでいくことが重要である。
- 川や公園の環境を守るために「自分たちができること」について一人一人が真剣に考え、グループやクラスでの対話を通して活動の是非や改善点について考えることができた。また、表現の段階で、他学年への発信を複数回行った。子どもたちは、異年齢とのつながりのなかで自己有用感や達成感を感じることができた。
- ごみと環境問題という現代課題を取り扱ったことで、自然環境と自分自身、地域社会とのつながりを実感することができている。
- 年間を通して話し合い活動を意図的に取り入れた結果、相手の言いたいことを受容した上で意見を述べるなど話し合いのスキルが向上した。

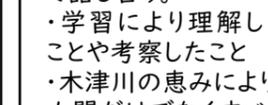
4. 河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果

- ◇ 木津川本流での環境調査を通して豊かな自然を五感で感じる事ができた。その体験が、「美しい自然を守りたい」という思いを生み、ごみ問題を自分事として捉えることができた。合わせて、子どもたちの主体的な課題設定と環境を守るための活動(ごみ減量作成等)につながった。
- ◇ 川ごみ調査では、事前にマイクロプラスチックの問題を学習していたので、特にプラスチックごみに着目して調査した。社会科や生態系に与える影響という点では理科の既習内容ともつながり、教科横断的に学習を展開することができた。河川は日常生活や社会と密接に関わっているため、多様な切り口から学習計画を構想することができる。
- ◇ 「木津川を美しくする会」や地域長、市環境課など、環境を守るために活動(仕事)している方々の話を聞くことで、川や公園を管理している人や未来に美しい環境をつなごうとしている人の存在を知る機会となった。さまざまな考えや思いに出会う中で、子どもたちの世界は確実に広がり、地域社会の中で生きている自分自身を自覚することができた。本校がめざすシティズンシップの育成につながっている。

河川教育 学習活動報告書【複数学年5・6年生】

1. 助成事業名	未来を創ろう 木津川と共に	学校名	京都府木津川市立木津小学校	助成番号	2024-7213-007
----------	---------------	-----	---------------	------	---------------

2. 実際に行った単元構成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																			
学習活動の結果	<p>単元名「木津川と人々の暮らし」</p> <p>地域を流れる木津川の地理的条件や歴史的事象について調べ、木津川のある暮らしについて自分なりの考えをもつ。</p> <p>関連教科:総合的な学習の時間20時間、社会科5時間</p>					<p>単元名「恵みをもたらす木津川環境」</p> <p>わたしたちの暮らしを支える木津川環境と農業との関連について調べ、農業を「生産者」「消費者」「つなぐ人」の視点から多角的に考察する。</p> <p>関連教科:総合的な学習の時間28時間、社会科6時間</p>					<p>単元名「木津川と共に生きる」</p> <p>木津川の恵みを受け継ぐために自分たちができることについて考えを深める。</p> <p>関連教科:総合的な学習の時間20時間</p>																				
	<p>○水の大切さについて知るとともに、木津川に興味をもつ。 ・第4学年の学習を想起し、暮らしを支える水の循環について確認する。 ・「木津川について知っていること」についてウェビングマップを活用して広げ、課題を設定する。 ○木津川の流域と、その周辺の土地の様子について調べる。 ・木津川の水の活用状況とその方法について情報を収集する。(インターネット、インタビュー、資料等)</p>  <p>○情報を整理・分析する。 ・木津川があることのメリットとデメリットに分け、考察する。 ○木津川がある暮らしについて気づいたことをまとめ交流する。 ・すべての生き物が「木津川の恵み」を享受していることや、うまく利用していることに気づく。</p>					<p>○社会科「米作り」との関連から、地域の田を潤す水に着目する。 ・木津揚水機場見学 ・パイプライン、ため池、地域にある95haの田を見学</p>  <p>○木津川の水を利用した米作りについて課題を設定する。 ・米作りと水質の関係 ・農家(生産者)の現状 ・生産量と流通の関係 等</p> <p>【6年】 ○水害から身を守るための暮らしについて考える。 ・ハザードマップで災害時の浸水危機について調べる。 ・市危機管理課の出前授業により避難所体験を実施する。 ・災害時の身の守り方について自分なりの考えをもち交流する。</p> 					<p>○木津川市の米作りを支える木津川環境について関心をもつ。 ・米作りと水質との関係について関心をもつ。 ・木津川支流の水質調査を行う。(pH、COD) ・五感を通して観察したことや水質調査結果をもとに、木津川環境について話し合う。 →木津川の支流は自然豊かで水質もきれいでであると結論付けられる。</p>  <p>○食糧生産と水との関係について理解する。 ・木津高生の探究出前授業「バーチャルウォーター」から食糧生産には大量の水が必要なることを理解する。</p> 					<p>○米作りについて生産者から話を聞く。 ・木津川の利用や農業に対する思いや考え ・気象変動(酷暑・水不足)と米作りとの関係 ・木津川市の米作りの良さや課題 ・米作りを未来につなぐための方策 等</p>  <p>○生産者と消費者をつなぐ人々(JA京都やましろ木津・府農業改良普及センター)の話を聞く。 ・暑さに強い米づくりのための品種改良 ・田植え時期の調整と取水期との関係 ・機械購入、育苗等の支援や米作りのための講習会開催 等</p>  <p>○情報を整理分析し、自分なりの考えをもつ。</p>					<p>○消費者の視点から木津川市の米作りについて考える。 ・米や食料品を購入する時の観点について保護者にインタビューする。 ・わかったことをまとめ発表する。→現状を知る。 ・「エシカル消費」についての出前授業から、生産地や生産者を確認することや地産地消の大切さについて理解する。 ・(株)明治の出前授業から「フェアトレード」について理解する。</p>  <p>○消費行動について考えをまとめ、交流する。</p> 					<p>○木津川市の農業を未来につなぐために必要なことについて考えを深め、交流する。 ・木津川の水が欠かせないこと ・古より人々は、木津川と豊かに共存してきたこと ・生産者、消費者、生産者を支える立場、それぞれがあってこそ、木津川市の農業が成り立っていること ・消費者としての自分たちの在り方 等</p>  <p>○これまでの学習を振り返り、「木津川に対する見方」の変容について話し合う。 ・学習により理解したことや考察したこと ・木津川の恵みにより、人間だけでなくすべての生き物が豊かに暮らせること 等</p> 			<p>○1年間の学びをまとめ、発信する計画を立て、準備する。 ・授業でお世話になった方々に発表する。 ・来年度、本単元を学習する4年生に発表する。 ・「木津川の恵みを受け継ぐために」という視点でプレゼンシートに学びをまとめる。 ・「自分たちができること」の提案をする。 ○発表会を開き、発信する。 ・府山城広域振興局、市農政課・環境課、市こどもエコクラブ、土地改良区、府農業改良普及センター、JAの方々からご高評をいただく。</p>  <p>○発表の振り返りを行い、交流する。</p>		

3. 得られた成果

- 探究のプロセス(共通体験→課題設定→情報収集→整理分析→表現→課題設定)を踏まえた単元構成や協働的・対話的な学びにより論理的思考力や表現力の育成を図ることができた。
- 共通体験したことが効果的に働き、主体的な活動につながった。体験活動とその後の学習のつながりや各々の場面期待する子どもの姿を明らかにした単元計画を立て、指導者が見通しをもって取り組んでいくことが重要である。
- お世話になった関係機関や農家の方々へ学びを発信し、感想や助言をいただいた。子どもたちは、木津川の恵みを受しながら農業を守ろうと努力している人々の存在を知るなかで、自然との共生について自分なりの意見をもつことができていた。
- 「木津川の恵みと農業が抱える問題」というテーマを取り扱ったことで、課題を自分事として捉えるとともに、自然環境と自分自身との関わりや社会とのつながりについて学ぶ機会となった。
- 年間を通して話し合い活動を意図的に取り入れた結果、体験したことから根拠となる事柄を示した上で意見を述べるなど話し合いのスキルが向上した。

4. 河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果

- ◇ 木津川から水を汲み上げパイプラインを経由して広大な田に水を送る仕組みに、子どもたちは驚きをもって見学していた。また、取水期には24時間体制で水の管理をしていること、すべてコンピュータ管理であることに感動し、農業を支える仕組みについて興味・関心をもったようであった。
- ◇ 木津川支流の水質調査では、川の汚れを知る科学的な方法について体験することができた。4年生で「川ごみ調査」を体験しているの、川を汚す要因が人の営みにあることも理解している。木津川を題材にすることで、体験活動での学びが系統的に積み上げられている実感がある。また、指導者が教科横断的に学習を展開することを意識したことで、社会科、理科、国語科、家庭科、道徳等とのつながりを明らかにしながら進めることができた。
- ◇ 木津川環境と農業との関わりを、「生産者」「消費者」「つなぐ人」の3者の立場から多角的に見ることにより、社会のつながりや経済のしくみ等を理解する機会となった。さまざまな考えや思いに出会う中で、子どもたちの自然観や人生観は確実に広がり、本校がめざすシティズンシップの育成につながっている。

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7213-007	未来を創ろう 木津川と共に	京都府木津川市立木津小学校

学年：第4学年

学習活動名：市環境課出前授業

日付：6月5日（水）

【見られたこどもの変容】

木津川市環境課より出前授業に来ていただき、川や海に流れ着いたプラスチックごみが生態系に及ぼす影響について学習した。社会科でごみ処理場の見学やごみの分別の現状について学習していたことや前年度に木津川支流の生き物調査をした体験ともつながり、木津川のプラスチックごみについて興味・関心をもち、木津川の環境調査に意欲を示していた。

【子どもの反応や気づき】

- 「日本人一人が1年間で使うペットボトルの本数は、約180本だということに驚いた。」
- 「世界で蛇口から水が飲める国は、9カ国しかないと知り、大切にしなければと思った。」
- 「2050年には、魚の重さよりプラスチックの重さの方が多くなると聞いて生き物は生きていけない、そうならいけないと思った。」



学習活動名：木津川の環境調査

日付：9月18日（水）

【見られたこどもの変容】

市環境課、「木津川を美しくする会」の方々にご支えいただき、木津川本流の環境調査を行った。河川敷に降りると草丈が高く、川辺までは結構な距離がある。鳥の鳴き声、河原の石や砂の様子などに興味を示しながら観察をしていた。川辺に着き、「木津川を美しくする会」の方から自然保護に関する話をお聴きした。子どもたちは川の美しさを五感で感じるとともに、美しい木津川の自然を守る必要があることを実感したようであった。その後、川の中の生き物を観察し、川辺で少し遊んだ後で、川ごみ調査を開始した。

降雨が少ない時期であったため、ごみは多くはなかったが、環境課の出前授業「マイクロプラスチック問題」から課題を設定していた子どもたちは、主にプラスチックに着目して分別し、感じたことを交流した。

【子どもの反応や気づき】

- 「木津川の川原に降りてみて、木津川はこんなにきれいで自然が豊かなことがわかった。」
- 「拾ったごみを分別してみるとプラスチックごみが多い。このごみは、どこからやってきたのだろうか。」
- 「木津川を美しくする会」の人たちは、川の自然を守るためにごみ拾いやイベントなどの活動をしてられるのだな。」
- 「プラスチックごみを減らすために、自分もポイ捨てをやめることやマイバッグを持参し、レジ袋をもらわないことなどに気をつけたい。」





学習活動名：木津川支流と身近な公園のごみ調査

日付：12月3日（火）～12月中旬

【見られた子どもの変容】

ごみ調査第2弾として、子どもたちの身近な遊び場である公園と、木津川支流のごみ調査を行った。木津川本流にたどり着いたごみは、おそらく、風で飛ばされて支流に着き、支流から本流へと流れてきたものではないかという予想の下での活動である。また、公園を管理している地域長さんの話を聞き、地域の方々が公園を美しく保とうと努力してくださっていることに気づくことができた。これらの体験活動を通して、「ごみのポイ捨てを何とか減らしたい。」「公園や川を、自分たちの手で少しでもきれいにしたい。」という思いを強くし、次の啓発活動へとつながっていった。

【子どもの反応や気づき】

- 「公園のごみ、特におかしの袋が多くてびっくりした。私たち子どもが捨てたごみだと思う。」
- 「だいたいのごみは、見えないところにあり、草に絡まっていたり、枝にくっついていたりした。このごみが、風で飛ばされて川を汚すのだな。」
- 「地域長さんの話を聞いて、地域の方々は定期的公園のごみを拾ってくださっていることを知った。美しい公園がずっと続くように自分たちにできることをこれから考えたい。」



学習活動名：自分たちにできること

日付：1月～3月

【見られた子どもの変容】

川ごみ調査、ごみ減量チャレンジ、雑紙回収、公園ごみ調査等のこれまでの活動を振り返り、自分たちにできることについて話し合い、計画を立て実行した。

- ・低学年に自作物語「うみのいきものをまもろう！」の紙芝居を読む。
- ・公園や木津川支流沿いに「ポイ捨てをやめよう！」の啓発ポスターを貼る。
- ・校内放送で学びを発信し、ごみ減量を呼びかける。
- ・公園に花のプランターを置く。
- ・ごみ分別イベントを他学年対象に行う。

グループごとに考えたことは異なるが、計画や準備の段階で、地域長さんや市役所の方にアドバイスをいただきながら、やり切ることができた。このことは、一人一人の達成感と自己有用感につながったと確信している。

【子どもの反応や気づき】

- 「公園や川沿いにごみ箱を置く計画を立てたが、地域長さんからごみ箱を置いていない理由を聞き、納得した。いろいろな方向から考えないといけないことがわかった。」
- 「ごみ分別イベントを実施した。6年生はさすがによく知っていた。私たちの活動について『わかりやすかったよ。』と感想をもらったのでうれしかった。」
- 「手作りの紙芝居は短いお話だったけれど、プラスチックごみの問題について伝えられたと思う。総合の学習は楽しかった。」

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7213-007	未来を創ろう 木津川と共に	京都府木津川市立木津小学校

学年：第5学年

学習活動名：木津揚水機場、パイプライン見学

日付：7月3日（水）

【見られたこどもの変容】

府山城広域振興局、市農政課、市土地改良区の方々にお世話になり、事前レクチャーを受けた上で木津川の水をくみ上げる揚水機場や、10 kmにも及ぶパイプライン、ため池、木津川の恩恵を受ける広大な田んぼを半日かけて見学した。木津川市の米作りは木津川があってこそ、そして、生産者だけでなく支える人々がいてこそ成り立っていることに気づくことができた。

【子どもの反応や気づき】

- 「木津川の恵みを受けた田があって、そこには鳥が何羽もいた。95ha もの田に生き物がいて、お米が育って美しい景観がある。それは木津川のおかげだと思うと、わたしたちの市に木津川があることを誇りに思った。」
- 「パイプラインを動かす人がいて、取水期には24時間体制でコンピューターによる管理をしていると聞き、驚いた。木津川に感謝したいし、川が汚れないように大切にしていきたい。」



学年：第6学年

学習活動名：水害から身を守るための暮らし

日付：7月5日（金）

【見られたこどもの変容】

ハザードマップで災害時の浸水危機について調べた後、市危機管理課の出前授業を受講した。市の公助の仕組みや日頃の備えについて理解を深めることができた。また、避難テントや簡易トイレ、段ボールベットの組み立てや備蓄食料の分配等の体験を通して、自分たち6年生でも避難所運営に関わっていただけることを実感した。

【子どもの反応や気づき】

- 「災害から身を守るため、警戒レベルを知り早めの避難を心がけることが大切だ。」
- 「さっそく家族で避難グッズを揃えたり、災害の時はどこに逃げるかなどを話し合ったりしよう。」
- 「木津小学校も、以前木津川の内水が溢れ運動場が水に浸かったことを知った。他人ごとではないので、日頃から防災について考えておかななくてはならない。」
- 「木津川市の水害の写真を見て、水害の怖さを知った。早めの避難、垂直避難が大切だと思った。」
- 「避難所生活をしている人は、こんなに大変なことをしながら協力し合って生活しているんだと分かった。私たちの体験は数時間だったが、実際の避難は何日も続く。テントや簡易トイレの組み立てなど、小学生でもできることがあると分かった。」





学年：第5学年

学習活動名：木津川支流（鹿川・小川）の水質調査

日付：10月1日（火）

【見られた子どもの変容】

木津川の米作りを支える木津川の環境について関心をもち、木津川支流の水質調査を行った。降雨が少ない日が続いたため、川の水がうまく取れず苦心したが、市こどもエコクラブの方にお世話になり、2本の支流について試薬を使って調査することができた。結果、Ph、CODともに良い結果となった。金賞を受賞するほどのおいしい米づくりは、木津川の水質に支えられていることであると理解することができた。

【子どもの反応や気づき】

- 「調査をして、木津川に流れる川の水はきれいだということが分かった。」
- 「生き物にとっても川は大切で、水質もよくなければならない。私も川を汚さないように大切にしていきたいと思った。」
- 「小川、鹿川は木津川につながっている。私たちの生活で汚すことのないようにしなければならない。」
- 「こどもエコクラブの方の話で、流れの速さによってCODやphの数値が変わると分かった。もっともっと、木津川のことを知りたい。」



学年：第5学年

学習活動名：消費者の視点から米作りを考える

日付：11月～12月

【見られた子どもの変容】

木津川市の米作りを生産者、消費者、生産者と消費者をつなぐ人の立場から多角的に見る単元構成であった。子どもたちは消費者となるが、消費者の立場としてどのように米作りに関わっていけばいいのか、エシカル消費の観点から学習を行った。相楽消費生活センターや株式会社明治さんの出前授業を通して、自分たちがとるべき消費行動について考えを深めた。

【子どもの反応や気づき】

- 「認証マークの一部は社会科で習って知っていたが、どのようなところに使われているのか、どんな意味があるのかなど、詳しく知ることができてよかった。」
- 「買い物の仕方や商品の見方を少し変えるだけでエシカル消費になると分かり、自分にもできると分かった。」



学年：第5学年

学習活動名：学びを発信しよう！

日付：1月～3月

【見られた子どもの変容】

これまでの学習を振り返り、農業を未来につなぐために必要なことについて考えるとともに、4年生やお世話になった方々に学びを発信した。木津川の恵みがあってこそ、私たちの生活が成り立っていることを理解した子どもたち。その発表からは、これからも木津川と共に生きるために、自分たちにできるエシカルな消費行動や自然保護活動を実践しようとする意欲が感じられた。

様式 15

[学校部門]

[実施箇所位置図]

助成番号	助成事業名	学校名
2024-7213-007	未来を創ろう 木津川と共に	京都府木津川市立木津小学校

主な実施箇所 木津川・木津川支流（井関川・鹿川・小川）

※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。
 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。
 (縮尺は 1/50 万～1/100 万程度)

助成事業の主な実施箇所

